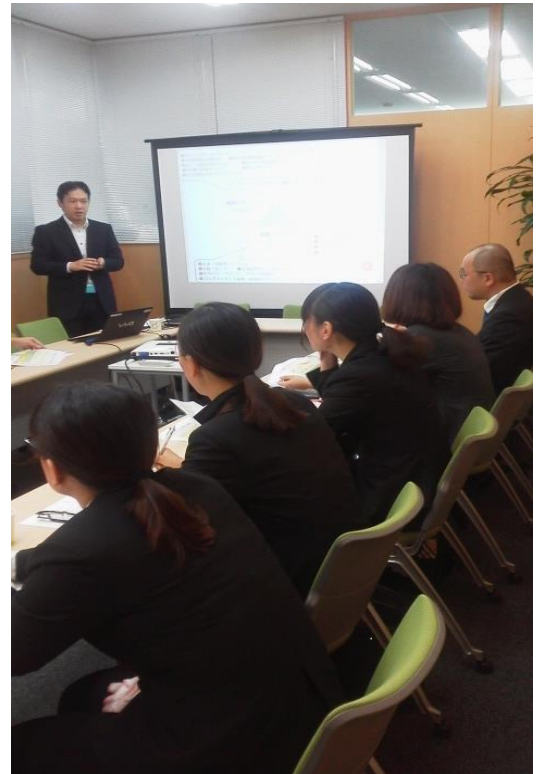


大学・大学院実習施設対応

EAPセンターでは、2009年より臨床心理士を目指す学生さんの実習施設として、見学実習を実施して参りました。2018年からは、国家資格として創立された公認心理師の資格取得のための実習施設として、大学・大学院の見学実習を受け入れています。

特に、2018年度からは、「公認心理師法」に基づき、厚生労働省・文部科学省に「産業・労働分野」の施設として登録されました。実習前に大学の担当者とEAPセンターが打ち合わせをし、実習施設として不備のないように環境を整えて、実習を実施いたしました。



実習当日には、実習指導担当者として登録されたEAPセンター社員が、当社の沿革やサービス概要を説明した後、産業領域における心理専門職の役割や当社EAPサービスの詳細について説明を行いました。更に、現場の理解を深めていただくために、当社コールセンターや直営カウンセリングルームを見学いただきました。

実習後は、学生の皆さんからレポートが提出されました。実習指導担当者は、その一つ一つに目を通し、コメントを記述しました。学生の皆さんの真摯な学びに、指導担当者も身の引き締まる思いを感じました。

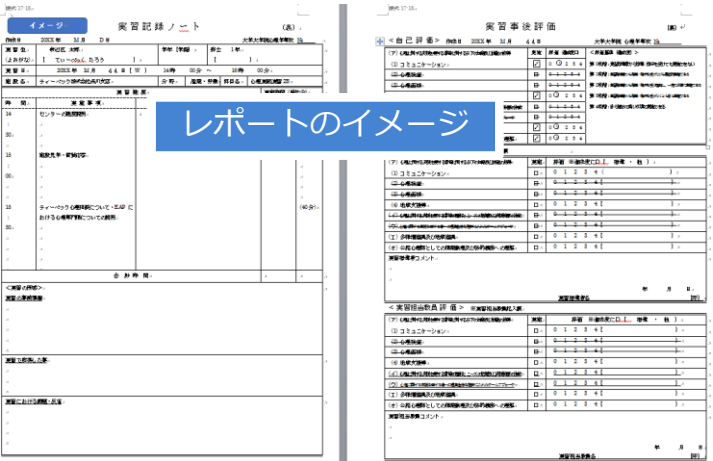
以下に、アンケートでいただいた学生の皆さんの感想をご紹介します。

「たばこへの対策」や「癌への対応」など、時代に合ったサービスがとても勉強になりました。

産業領域はこれから更に発展していく分野であると感じ、自分の将来の就職先として考えたいと思うようになりました。

電話相談では、時間も限られていて相手の顔も見ることが出来ないため、難しい面も多いと思いますが、どうしたらクライアントさんのためになるかを考えながら仕事をしている様子が拝見できました。

産業領域では、臨床心理学に関する知識だけではなく、精神医学や人事管理、労働法規といった他領域にわたる知識が必要であり、柔軟に対応できるスキルが必要だということがわかりました。



「健康経営」という考え方を学び、非常に興味を覚えました。

職場の生産性の向上に心理職として携われることに興味をひかれました。

学校などでは、校内に関する相談しかできないといった制約があるのに対し、EAPでは家族についてなど、職場外の内容も受けつけ、個人のあらゆるストレスに柔軟に対応することが、企業の利益につながるという考え方に驚きました。

プログラムを提供する側がまず健康でなくてはならないという考えは、産業領域のみならず、どの領域、どの仕事においても重要な考え方だと感じました。



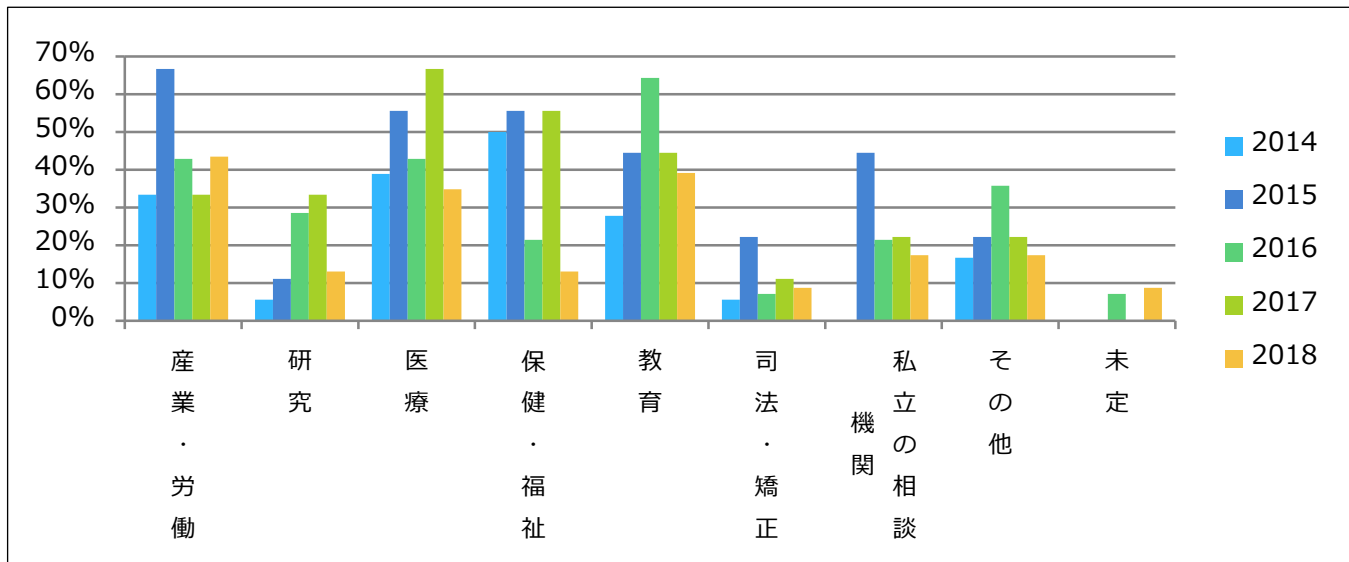
大学・大学院の心理学関連学科では、産業領域の学びの場は少ないように感じます。その中で、学生さんたちが、少しでも現場を知り、新しい知見を得ること、視野が広がることの一助になることで、後進の専門家の育成に貢献出来ることは私たちの喜びです。

実績

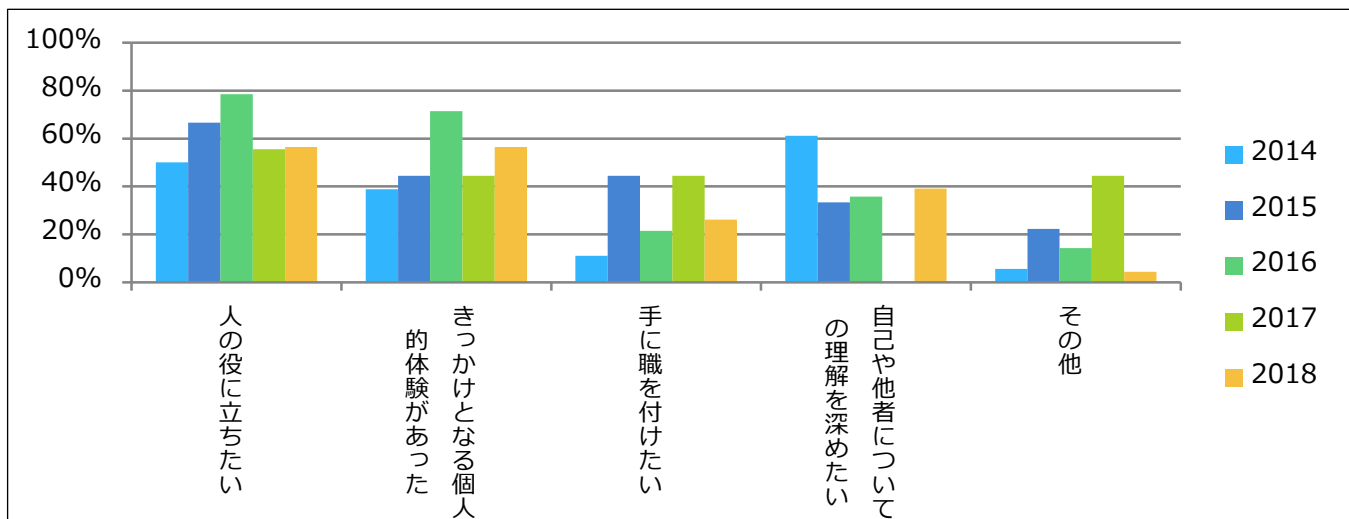
2009年～2018年	専修大学 様	計10回
2014年～2018年	埼玉学園大学 様	計4回
2020年予定	愛知学院大学 様	

2014年～2018年 アンケートより

●大学院終了後に進みたい領域(複数回答可)



●臨床心理士を目指そうと思ったきっかけ(複数回答可)



アンケートでは、様々な分野に興味・関心を持ち、人の役に立ちたい、人の心について理解を深めたいという学生さん方の思いが感じられました。これからの研鑽に期待し、共に心理職として尽力できる日を楽しみに待っています。